喜びを与える勇気

大学生のFさんは、雨の降る夕方、スーパーの入口で心に残る場面に出会いました。

買い物袋をいくつも抱えた年配の女性が、自動ドアの前で傘の扱いに困っていたのです。「最近は何でも一人でやらなきゃいけなくて大変ね。」と独り言が聞こえてきました。

少し迷った後、Fさんは**勇気を出して**、「お持ちしますよ。」と声をかけ、荷物と傘を一緒に運びました。無事に外へ出ると、「本当に助かりました。」と穏やかな笑顔で礼を言われました。

その瞬間、Fさんの**胸には温かな気持ち**が広がりました。**特別な力がなくても、人の役に立てる場面は身近にある**と感じたのです。

人は助けてもらうことで心が軽くなり、助けた側も同じように満たされます。

何気ない親切が、**日常に静かな喜び**をもたらしてくれるのです。

今日の言霊　親切は人の心を明るくする。

教職員の仕事は、目立つ成果よりも、**気づかれにくい行動の連続**で成り立っています。

声をかけるか迷った一瞬、手を差し伸べるかためらった場面、**その選択の積み重ね**が、学校という場の**空気感・雰囲気**をつくります。**小さな配慮やさりげない支援**は、その場では大きな変化を生まないかもしれません。

しかし、それを続けることで、**人は安心**し、**信頼が育ち**、**集団は確実に強く**なっていきます。

そして何より、行動した本人の中に「**自分の一歩が誰かを支えた**」という実感が残ります。この実感こそが、**困難な状況でも踏みとどまる力**となります。

学校において最も影響力を持つのは、**言葉ではなく日々の姿**です。教職員が**積み重ねる小さな親切**は、やがて**大きな教育力**となり、子どもたちの**生き方そのものに影響を与えていく**のです。

【今回の学び】⇒学校文化は、小さな親切の積み重ねから生まれる！